



松長有慶座主

「私は三蔵法師です」。昨年暮れ、こう自己紹介する人に東京で会った。西遊記に出てくる玄奘とは関係ない。仏教国ミャンマー(旧ビルマ)で、僧の最高位に在るパツタンダ・エンダバラ大僧正(5)だった。

三蔵は経蔵、律蔵、論蔵に分けた仏教聖典の総称で、すべてに精通したと認められた僧だけが三蔵法師と呼ばれる。試験は難しく、敬虔な仏教徒が多いこの国でも、合格者は戦後で12人だけ。ミャンマー人たちは「生き仏」と敬う。

それほどの人物が東日本大震災以外に、日本で心を痛めていることがある。北九州市・門司港のミャンマー仏教寺院「世界平和パゴダ」が昨年未から休院になったことだ。設立は1958年。仏塔と僧院があり、

### 三蔵法師の愛い

かの地から派遣された僧が住んでいた。日本で唯一の本格的なパゴダだった。運営費を旧ビルマ戦線の戦友会からの寄付に頼っていたが、高齢になった会員の死去が相次ぎ、赤字が続いていた。「戦いに敗れ、飢え死にしようだった私たちを助けてくれた。あの恩は忘れない」。そんな思いで支えてきた戦友会も、半世紀を経て力尽きた。

ミャンマーは民主化と改革に向けて動き始めた。日本政府は本格的な経済支援を決め、日本企業も投資先として熱い視線を注ぐ。両国の関係改善がこれから進むとする時期に、友好の証しだったパゴダの休院は、何とも寂しい。

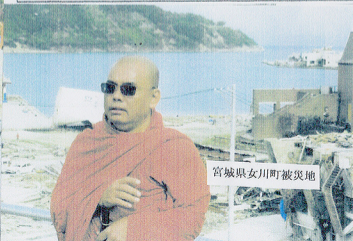
「両国の友好の象徴がなくなる」とに等しい。何とか再開できないものか。憂う三蔵法師を助ける孫悟空は、現れるのだろうか。

解

西部本社社会部  
牧野田孝



佐々江外務次官



宮城県女川町被災地

